

# 平成28年度 学校評価結果報告

徳島県立川島高等学校

◆はじめに◆

本校では平成28年度当初に作成しました「学校評価計画」に基づき、教育活動を進めてまいりましたが、このたび、その評価結果をまとめましたのでご報告いたします。評価にあたりましては、1月に実施した「学校評価アンケート」などを通じ、多くの貴重なご意見・ご感想をお寄せいただき、誠にありがとうございました。アンケート結果は3月にとりまとめ、全教職員で検討し、関係者評価委員会を経て、教育活動の課題などを明らかにし、平成29年度の学校運営、教育方針、重点課題の設定などに活用させていただいております。今後とも、こうした学校評価結果を踏まえ、教育活動の充実・発展に努めてまいりますので、引き続きご理解とご協力くださいますようお願いいたします。

## 平成28年度

### 学校評価 総括評価表

平成28年度 徳島県立川島高等学校 学校評価についての総括評価表(1)

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評価 価		学校関係者の意見	次年度への課題
<p>(1) 中高一貫教育を活かした系統的な指導体制の確立</p>	<p>① 学校運営面での中高連携の促進に努め、異年齢集団における社会性の育成を進める。</p> <p>② 6年間の計画的・継続的な教育の研究を進め、中高の一貫性を促進する。</p>	評価指標	評価指標の達成度	総合評価		<p>○ 6年次生の学校生活への満足度が90%を超えていることは高く評価できる。</p> <p>○ 中高一貫教育推進委員会を年間6回実施することで、SAなどの取り組みの成果が検証され、充実することを期待している。</p> <p>○ 数学の先取り学習の推進に努めてほしい。</p> <p>○ 早い時期から高校生になってから学ぶことができるメリットがある。</p> <p>○ 大学受験を早い時期から視野に入れて学ぶことを教えることが大事なことだと思う。</p> <p>○ 中高一貫教育のメリットを生かし、早期の目標設定を促してほしい。</p>	<p>○ 中高一貫教育校として12年が過ぎ、概ね良好な中高一貫教育ができていると考えている。しかし、現状に満足するのではなく、これまでの教育活動に関する検証結果を十分に検討し、学習指導・進路指導・特別活動等の各領域で更なる充実をめざす。</p> <p>○ 授業の改善に向け、中高相互の授業見学や研究授業、また、中高合同の教科会の内容を充実させ、その中で、中高の強みを生かしたアクティブラーニングに引き続き取り組む。</p> <p>○ 数学の先取り学習を継続することにより、そのメリットを受ける理系への進学者を増やす。</p>
				〈評定〉			
		活動計画	活動計画の実施状況	〈所見〉			
		<p>① ・6年次対象の「6年間の学校生活」のアンケート結果を踏まえ、中高連携の学校行事をより充実させる。7月の中高一貫教育説明会、10月の県立川島中学校2年生対象説明会での発表資料を十分検討する。</p> <p>② ・平成29年度の教育課程を教育課程委員会及び中高一貫教育推進委員会を通して検討し編成する。</p> <p>・中高相互の授業見学、研究授業に対する合同協議や中高合同の教科会において、授業方法等について検証し、授業の工夫改善を図る。</p> <p>・今年度実施の授業展開やクラス編成の検証をする。</p>	<p>① ・平成28年の1月に6年次生を対象とした中高一貫教育アンケート結果を参考に、中高一貫教育推進委員会での中高の学習指導、進路指導や生徒間の交流について協議した。また、今年度も県立川島中学校募集説明会における保護者アンケートや県立川島中学校2年次生対象高校説明会における保護者アンケートを実施し、その結果を参考に中高一貫教育推進委員会で、今後の実施内容や説明内容等について検討した。</p> <p>② ・平成29年度教育課程については、4月に教科会及び教育課程検討委員会、5月に中高一貫教育推進委員会を開催して検討し、職員会議での審議を経て決定した。</p> <p>・中高相互の授業見学及び合同協議を6月・9月に実施し、教育内容や教育方法における中高の連携を踏まえた確認や検討を行った。さらに、9月・2月に授業評価アンケートの結果を受けて、教科会(必要に応じて中高合同)を実施し、授業内容や進度についての検討や共通理解を図った。</p> <p>・定員の発表を受け、平成29年度入学生のクラス編成について、中高一貫教育推進委員会などで検討した。</p>	<p>B</p> <p>本年度第6期生の卒業前に行った中高一貫教育アンケートの結果から、川島高校での学校生活、学習内容、進路指導、学校行事に対して80%以上の生徒が満足していると答えており、一定の満足度と理解を得られた。</p> <p>県立川島中学3年次生全員が参加する8月の中学生体験入学や、中学3年次生を対象とした高校教員が行う中高を接続するための授業であるSA(スペシャルアプローチ)をとおして、中高一貫教育の一層の充実を図ることができた。また、今年度は特設SAに加えて中学生体験入学においても、高校生が中学生に学習を教える機会を与え、アクティブラーニングを取り入れた試みを実施し成果をあげた。</p>			

平成28年度 徳島県立川島高等学校 学校評価についての総括評価表(2)

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評 価		学校関係者の意見	次年度への課題
(2) 確かな学力の充実と指導力の向上	① 個別面談の充実や、朝の学習、家庭学習など自主学習の促進に努める。  ② 学力向上を図る研修の充実や、授業の創意工夫に努める。	評価指標	評価指標の達成度	総合評価		○三者面談や個人面談を熱心にやられていることは、生徒の満足度の高さに表れている。  ○漢字検定、英語検定の合格者も多く図書貸出冊数が一人6冊以上を達していることは学習習慣育成の成果と思う。  ○大学受験の時、就職の時に検定は大きな評価をしてもらう材料になる。高校1年生の早い時期から検定には盛んに参加させ、いろいろなジャンルの検定にチャレンジするようにする。  ○今後も生徒の意識改革による学力の向上に努めてほしい。	○学力向上や実践的な学力の育成には、主体的な学習者の養成が急務となる。そのために自己分析を行いつつ、目標に向けて努力する意識と習慣作りが大切である。面談を大切にし、具体的な課題を与える必要がある。まずは机に向かったり本を読む習慣を身につけることから始めることが大事である。  ○「朝の学習の時間」は、4・5年次生は語検定、漢字検定という具体的な目標に向かって学習を進める時間として、また、一日の学習を落ち着いてスタートさせるという目的で行われている。その効果を肯定する教員が73.2%（前年比5.7ポイント増）になった。3年連続で50%を上回り、一定の評価を得られている。取組への意識を年次団で共有できれば効果がより一層上がるのではなかろうか。  ○アクティブラーニングを取り入れた「学力向上実行プラン」の実践活動を年次や各教科会において緻密な検証を進め、より一層の実践の継続が、今後の課題である。  ○読書については、調べ学習や進路に関する図書の利用などを通して、さらに推進する必要がある。
		① 「三者面談や個別面談は進路選択などに役立っている。」と思う生徒の割合は、75%以上をめざす。 ・家庭での生活状況を朝学ノートもしくは生活記録シートを利用しながら生徒に自己分析させることで学習時間を、前年度から10分以上増加させる。 ・漢字検定、英語検定準2級以上の合格者数は、それぞれ25人以上をめざす。 ・「朝の学習により、学習の習慣が身についた。」と思う生徒の割合は、50%以上をめざす。 ・読書の推進に努め、年間読書冊数は、一人6冊以上、貸出冊数は、前年度から10%増をめざす。 ・総合的な学習の時間の在り方や運営方法について、年3回以上検討し、その改善・充実を図る。 ② ・生徒の授業に対する満足度は、75%以上をめざす。	① ・三者面談や個人面談に対する生徒の満足度は78.2%（前年比0.1ポイント増）であった。 ・朝の学習に対する生徒の満足度は42.4%（前年比1.0ポイント増）であった。 ・平日の家庭学習時間は4年次生は1時間2分、5年次生は1時間20分、6年次生は1時間36分（前年比4年次生は7分減、5年次生は11分増、6年次生は30分減）であった。 ・漢字検定の準2級以上の合格者は18人、英語検定の準2級以上の合格者は29人(2/6時点)であった。 ・図書貸出冊数3026冊（1月末）は前年より954冊増、1人あたり6.3冊（前年より1.7冊増）であった。  ② ・授業に対する生徒の満足度は75.5%（前年比3.1ポイント減）であった。 ・習熟度別学習や少人数学習に対する生徒の満足度は68.8%（前年比4.0ポイント減）であった。	〈評定〉  <b>B</b>  ----- 〈所見〉 三者面談や個人面談を予定どおり実施できた。肯定的意見が生徒78.2%、保護者81.5%となった。とおむね生徒保護者ともに面談等のサポート体制には満足できているようである。  生徒の授業に対する満足度は目標の75%以上を達成できているが、前年比3.1ポイント減であった。評価目標を達成してはいるが、より一層の指導力の向上に努め、授業の改善の必要がある。  習熟度別学習や少人数学習に対する満足度は前年比4.0ポイント減少した。よりいっそうの改善と努力を続けたい。			
		活動計画	活動計画の実施状況				
		① ・生徒との常時面談を心がける。 ・朝の学習の時間を毎日10分間設定し、本校独自の「朝の学習ノート」で自学自習を行わせる。 ・4・5年生は漢字検定及び英語検定合格を目標とした学習を行う。 ・6年生は各自の進路目標達成のための学習を行う。 ・朝の学習ノートに前日の生活記録を記入し、生徒に自己反省を促すことで、規則正しい生活習慣と学習習慣を身につけさせる。 ・宿題・週末課題の提出を義務づける。 ・家庭学習時間調査を毎月行う。 ・読書ノートを活用させたり、校内読書会やクラス読書会を開催し、読書の啓発を行う。  ② ・学力向上検討委員会と連携し、国・数・英・理・歴・公における学力・学習状況についての目標・方策を設定し、学習支援体制の改善に努める。	① ・個人面談は4月と6月、及び10月の科目登録時を含め3回以上実施できた。また、保護者面談は5月のPTA総会、7月の三者面談、10月の年次PTAなどで実施できた。 ・朝の学習は全校集会など特別な場合を除き毎日実施できた。4・5年次生は、国語と英語を毎朝自学自習し、金曜日には国語・英語の小テストを隔週に実施した。6年次生は生徒の進路希望に沿った内容をホームルーム単位で実施した。 ・朝の学習ノートは、毎日の生活記録、学習内容を担任がチェックした。 ・宿題・週末課題は、提出させて教科担任がチェックした。 ・家庭学習時間調査は、毎月実施し集計結果を職員会議で報告した。 ・読書については、食と健康、ノーベル賞など季節や話題になった事柄と関連した本の紹介を行った。また、校内読書会で、図書委員によるビブリオバトル（おすすめの本の紹介）を実施するなど啓発に努めた。 ② ・今年度の「学力向上実行プラン」は、「アクティブラーニングの視点からの学習・指導方法の改善に関する実践研究」の指定を受け、活発な学習活動が展開できた。				

平成28年度 徳島県立川島高等学校 学校評価についての総括評価表(3)

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評 価	学校関係者の意見	次年度への課題
<p>(3) 生徒の能力・適性に 応じた進路の実現</p>	<p>① 進路指導プログラムの改善・充実を図り、進路達成意欲を高める。</p> <p>② 三者面談・年次PTAなどにより保護者との連携強化に努める。</p>	<p>評価指標</p> <p>① 補習、実力テスト、模試等に積極的に取り組む生徒の割合は、75%以上をめざし、保護者の満足度は、80%以上をめざす。 ・進路意識を高める行事や講座に対する満足度は、生徒・保護者ともに75%以上をめざす。</p> <p>② 個別面談に対する保護者の満足度は、85%以上をめざす。 ・進路指導に対する保護者の満足度は、75%以上をめざす。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>① 補習、実力テスト、模試等に対して積極的に取り組んでいる生徒は65.1%（前年比1.5ポイント減増）、保護者の満足度は89.7%（前年比1.8ポイント減）であった。 ・進路意識を高める行事や講座に対する満足度については、生徒は77.2%（前年比2.7ポイント増）、保護者は73.2%（前年比5.2ポイント減）であった。</p> <p>② 個別面談に対する保護者の満足度は81.5%（前年比2.4ポイント減）であった。 ・進路指導に対する保護者の満足度は、68.8%（前年比7.2ポイント減）であった。</p>	<p>学校関係者の意見</p> <p>○土曜日補習や学習合宿などが定着しており、成果を上げつつある進路実現の大きな力となっている。</p> <p>○個別面談に対する保護者の満足度が8割あり、学校と保護者が共に子育てに取り組む信頼関係は築かれている。</p> <p>○おおむね評価指数どおりと思われる。</p> <p>○今は就職するのも大学に行くにしても専門学校に行くにしても必須になっているのが面接です。時期が来てから慌てて面接の練習をしても付け焼刃的でなかなかうまくいかないと思う。試験官も面接のプロなのでその場で取り繕っても見破られてしまうと思うので早い時期から練習をするべきです。</p>	<p>次年度への課題</p> <p>○補習等への取り組みや進路意識を高めるための行事等に積極的に取り組む生徒が4年連続して増えている一方で、進路指導や個別面談に対して保護者の満足度は評価指標の目標に達していない。早期からの生徒自身による自己分析や進路しるべ、基礎学力をつけるためのサポートなどの改善をめざしたい。</p> <p>○PTA総会や年次PTAの参加率を高め教育活動や進路指導に対する保護者の理解促進の機会を確保するため、夕刻を利用した年次PTAを準備することも検討したい。</p> <p>○進路達成に関して、評価指標に成果主義的なものも取り入れられているかという意見があり検討を要する。ただし、最終進路状況の把握が3月末になることで評価は前年度のものになること、希望進路を高く持たせると満足度が高いことがよい評価にはならないことなどから現状では評価指標に盛り込むのは難しいのではないかな。</p> <p>○PTA大学視察に関しては、参加者25名程度で実施できたが、より多くの人数の参加者で実施できるように継続していきたい。</p>
		<p>活動計画</p> <p>① 進路達成のために補習、実力テスト、模試を計画的に実施するだけでなく、「朝学」「総合的な学習の時間」「土曜日補習」「サテライン授業」など様々な学習支援を行い、学力や小論文力養成を図る。 ・4年生に対し「職業人講演会」、5年生に対し「アカデミックレクチャー」、6年生に対し「進路ガイダンス」を実施する。 ・小論文講演会、進路講演会、進学座談会を各1回以上実施する。</p> <p>② 夏季休業中、冬季休業中、大学入試センター試験後などに、三者面談を実施する。  ・年次PTAを年2回(5・10月)実施し、保護者面談や保護者対象の進路講演会を実施する。  ・PTA大学視察を年1回実施する。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>① 補習、実力テスト、模試を計画通り実施した。 ・「サタデーサポート(土曜日補習)」、「代ゼミサテライン(DVD視聴)」、「サマーチャレンジ(学習合宿)」の学習支援策を定着させた。 ・4年次生の「キャリアレクチャー」、5年次生の「アカデミックレクチャー」、6年次生の「進路ガイダンス」を予定通り実施した。 ・小論文模試を各年次ともに1回ずつ実施した。入試小論文指導は個別指導で行った。 ・小論文講演会を各年次ともに1回ずつ実施した。進路講演会は各年次1～3回実施した。進学座談会も実施できた。</p> <p>② 夏季休業中は生徒全員を対象に、また三者面談は冬季休業中及び大学入試出願前などに随時実施し、保護者との連携強化に努めた。 ・PTA総会や年次PTAにおいてクラス懇談及び保護者面談を実施した。10月の年次PTAでは保護者対象の進路講演会も実施した。 ・PTA大学視察として、8月に京都の立命館大学の視察を実施した。</p>		

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評価		学校関係者の意見	次年度への課題
(4) 基本的な生活習慣の確立を図る生徒指導の徹底	① 生徒一人一人の自覚を促し、基本的な生活習慣を身につけさせる。  ② あらゆる教育活動をおし、きめ細やかな生徒指導を行い、いじめ防止等の取組に努める。	評価指標	評価指標の達成度	総合評価		○ 基本的な生活習慣、社会のルールやマナーの大切さの指導について、生徒の約90%、保護者の80%から支持されていることは素晴らしい。  ○ 「高校生もヘルメット着用を」生徒が呼びかける取組は継続してほしい。  ○ 評価はAでも良いと思う。しかし、スマホトラブル等については今後も指導が必要と思う。  ○ 保護者との連携のもとで保健相談課を中心に関係する複数の教員が関わり個別事案に応じた適切な支援を行う必要がある。そのためには、連携協力体制づくりが重要である。  ○ 健康と安全の意識の上に立って健康管理を自ら実践できるように日常的な指導が必要である。中高連携シートを活用し、生徒個人の理解を深める努力をしていきたい。  ○ 交通安全に対する意識を高め、自転車運転時のマナーの向上、安全運転の徹底を図る必要がある。	
		① 全校集会、指導週間を月1回実施し、生徒指導の徹底・充実に努める。 ・ 学校評価アンケートにおける、生徒の達成度は、80%以上をめざす。  ② 学校評価アンケートにおける、生徒指導に関する生徒・教職員の達成度は、80%以上をめざす。	① 年間で全校集会を7回、指導週間を11回実施した。 ・ 基本的な生活習慣、社会のルールやマナーの大切さを自覚させる指導に関する肯定的意見は、生徒は90.3%、保護者は81.4%、教職員は80.5%であった。始業チャイムを守る等前向きな態度で授業に取り組んでいることに関する肯定的意見は、生徒は87.8%、教職員は90.2%であった。子どもは校則やきまりを守り前向きな態度で学校生活を送っていることに関する保護者の肯定的意見は91.7%であった。服装・頭髪等高校生らしい身だしなみを心がけて生活しているか(適切な指導が行われているか)に関する肯定的意見は、生徒は92.3%、保護者は93.3%、教職員は87.8%であった。  ② 学校には悩み等を相談できる教員や友達がいるかに関する生徒の肯定意見は78.8%であった。学校は、保護者からの連絡や相談に迅速かつ丁寧に対応することに関する保護者の肯定的意見は78.4%であった。教員の共通理解のもと適切できめ細やかな生徒指導に関する肯定的意見は、保護者は75.5%、教職員は70.8%であった。適切な保健・安全教育が行われ健康で安全な生活を心がけているかに関する肯定的意見は、生徒は91.7%、保護者は86.9%、教職員は92.6%であった。	〈評定〉  B  ----- 9割近くの生徒は基本的な生活習慣、社会のルールやマナーの大切さを自覚し生活することができている。しかし、一部の生徒において自分勝手な行動が見られる場面もあった。  服装頭髪等の継続的指導を要する生徒は一部に限られ、9割強の生徒は身だしなみを心がけて生活できており全体的に安定している。しかし、ネクタイ等の着こなし、女子のスカート丈や男子の柄物靴下などの小さな違反に対しては、継続しての指導が必要である。  友達や先生等校内に悩み事を相談できる生徒は8割を切り保護者が迅速で丁寧な相談体制を評価する指数は8割に届かず厳しい評価になった。  適切な保健安全教育が行われ高い評価を受けている。大半の生徒は健康安全について高い意識を持つ一方で、自己の健康管理が不十分な生徒が見受けられる。			
		活動計画	活動計画の実施状況				
		① ホームルーム活動、年次集会、全校集会、指導週間等の機会を活用し生徒の自覚を促し、指導の徹底を図る。また、登下校指導、校内外巡視等を適宜実施し、生徒の実態把握とともに生徒の注意を喚起することによって事故や問題行動の未然防止を図る。  ② 授業態度、身だしなみや携帯電話に関する指導等について共通理解し、指導の徹底を図る。また、教職員間の情報交換を密にし、個々の生徒の指導について連携して取り組む。さらに、ホームルーム担任を中心に保護者との連絡を密にし、相談等に対応する。 ・ 長期休業中の校外巡視等、PTAや地域、青少年育成補導センター、警察署等の協力のもとで実施し、連携を深める。 ・ 交通講話、非行防止教室、交通安全教室、薬物乱用防止教室(4年生対象)、健康教育講演会(4年生対象)を年1回以上実施する。 ・ カウンセリングの体制を充実させ、丁寧な支援を行う。	① 全校集会、年次集会、ホームルーム活動等を通して、生徒指導上の注意事項について生徒自身に考えさせ、事故や問題行動の未然防止を図った。また、毎月20日の「学校安全の日」にあわせて4日間の指導週間を設定し、登下校指導、服装・頭髪指導、遅刻指導、校内外巡視を実施した。生徒会役員と生活委員による朝の挨拶運動、交通委員による下校時の交通マナーアップの呼びかけ等、生徒による活動も積極的に実施した。  ② 「携帯電話校内使用禁止」の校則に基づいて、落ち着いて授業に取り組める環境づくりに努めた。また、放課後の使用や校外での使用についても自覚を促し、ルールやマナーを守り、よく考えて行動させることにより、携帯電話に関連するトラブルや犯罪の未然防止を図った。また、授業時の生徒の態度や言動についての情報交換を密にし、継続的な指導を行った。 ・ 校外巡視等で関係機関との連携を深めることができた。 ◇ 吉野川警察署交通係長を講師に招いて交通講話を実施した(7/19)。◇ 様々な非行と犯罪(加害・被害)の防止を目的としてLINE株式会社から講師を招いて非行防止教室「インターネットを使うときに気をつける事、考える事」を実施した(12/21)。◇ 阿波吉野川警察署交通課に依頼し、阿波高校と合同の原付車安全運転講習会を実施した(7/15)。◇ 吉野川警察署生活安全課スクールサポーターを講師に招き、4年生に対して、薬物乱用防止教室を実施した(5/9)。 ・ 緊急時に備えての心肺蘇生方講習会(4年)や健康の保持増進を図るため健康教育講演会(4・6年)を行った。また生活習慣改善プロジェクトを全学年で実施した。 ・ 年に2回悩みごとアンケートを実施し、生徒の把握に努めると同時にスクールカウンセラーへの支援要請など早期対応を図った。				

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評価		学校関係者の意見	次年度への課題
<p>(5)人権尊重の精神の涵養を図る人権教育の推進</p>	<p>① 人権教育指導計画の推進と、“あわ”人権学習ハンドブックの活用するとともに人権問題を解決できる生徒の育成に努める。 ② 人権尊重の意識を高めるため、創意溢れる具体的な取組の展開に努める。</p>	評価指標	評価指標の達成度	総合評価		<p>○人権新聞や「人権の日」の放送は、今後も継続してほしい。</p> <p>○「道徳」に関する話題も中高連携で本学の特色として充実させる。</p> <p>○「18歳選挙権」など新しい社会問題についても意識向上に努めてもらいたい。</p> <p>○中学生からの人権教育に関する取組が良くできていると思う。今後も積極的に取り組んでほしい。</p> <p>○人権学習はいつの時代でも大事なことです。講師の方を招いての人権講演会はいつも素晴らしいものがありまます。私も毎年参加させていただき、今でも覚えていてます。保護者の方が声を掛け合って講演会に参加することも大事だと思う。講演会が終わってから生徒に意見を聞きましたが、どの生徒も大変感動したという意見を聞いた。</p>	<p>○人権学習ホームルーム活動の主題設定や内容について各年次の状況を考慮し、より一層精選する。</p> <p>○人権学習ホームルーム活動の展開や資料等について、生徒の状況に合わせたものを用いるなど、常に状況を把握し精選する。また、自己評価票の活用をさらに徹底し、反省点を生かせるよう努力する。</p> <p>○人権学習ホームルーム活動に人権委員のより積極的な参加を促す。</p> <p>○「人権の日」の放送では、引き続き「個別的な視点」や身近な人権、最近の人権問題等について考え、様々なテーマとなるような内容を工夫する。中学校への放送や中学生の放送担当も継続させ、道徳的内容にも適宜触れながら、中高連携を意識した内容を工夫する。また、人権委員が主体的に活動できるよう事前の指導をより一層工夫していく。</p>
		<p>①・「人権学習ホームルーム活動の実施回数と内容は適切であり、人権教育は充実している。」と思う生徒の割合は、80%以上をめざす。</p> <p>②・「人権の大切さを学び、それを日常生活に活かそうとしている。」と思う生徒の割合は、85%以上をめざす。 ・「人権を大切にする教育活動が行われている。」と思う保護者の割合は、85%以上をめざす。</p>	<p>①・人権学習ホームルーム活動の実施回数と内容は適切であり、人権教育は充実していると思う生徒の割合は、「そう思う」(25.0%)と「ある程度そう思う」(52.4%)を合わせると77.4%(昨年比1.4ポイント増)となり評価指標を上回ることができなかった。</p> <p>②・人権の大切さを学び、それを日常生活に活かそうとしていると思う生徒の割合は、「そう思う」(30.1%)と「ある程度そう思う」(51.7%)を合わせると81.8%(昨年比0.8ポイント減)であり評価指標を上回ることができなかった。 ・人権を大切にする教育活動が行われていると思う保護者の割合は、「そう思う」(21.1%)と「ある程度そう思う」(60.3%)と合わせると81.4%(昨年比6.7ポイント減)となり評価指標を上回ることができなかった。</p>	<p>〈評定〉 <b>B</b></p>	<p>〈所見〉 人権学習ホームルーム活動の中で“あわ”人権学習ハンドブックを活用し、多様なテーマを取り入れるよう配慮し、年次の状況に応じた内容の展開となった。 鴨島支援学校との交流は、6月の鴨島支援学校の運動会、11月の鴨島支援学校の学校祭で交流を行った。参加した生徒は和気あいあいと競技の補助に務めていた。また、11月の「ふれあい交流作品展」には本校生徒の作品も展示し交流の輪を広めた。9月の本校学校祭での交流は本年も実施できなかった。</p>		
		活動計画	活動計画の実施状況	<p>①・人権教育推進委員会で企画・立案した年間指導計画に沿って人権学習ホームルーム活動が展開できた。 ・主題設定には“あわ”人権学習ハンドブックを積極的に活用し、高校3年間を見据えできるだけ「個別的な視点」と「普遍的な視点」をバランスよく取り入れた。また、昨年度と同様に「個別的な視点」の中でも特に「同和問題」に重点を置き、各年次において必ず取り上げるように計画し実施した。 ・人権学習ホームルーム活動の生徒の「自己評価票」により、生徒の取り組みや感想が把握でき効果的に利用した。</p> <p>②・「人権新聞」を各学期毎3回発行し、生徒の感想文等内容の充実を図り、家庭への良き情報発信となった。 ・鴨島支援学校運動会や学校祭に参加し交流を深めることで、人権意識の高揚を図った。 ・堀内佳さんの「いま・しあわせに生きるために・・・」と題した講演会(人権コンサート)では、堀内さんご自身の体験をもとにした素晴らしい歌と語りによる熱いメッセージの1つ1つが生徒たちの心に深く刻み込まれた講演となった。特に「自分を好きになろう」「自分の周りにある小さな幸せの種を見つけられる人になって欲しい」「他の人のひだまりになってほしい」・・・という言葉の重みを、多くの生徒がしっかりと受けとめることができた。教職員や保護者それぞれにも多くの気づきを与えていただけた充実した学校行事となった。また、毎月10日の「人権の日」では年間を通じて各ホームルームの人権委員による「人権の日」の放送を行い、人権委員会活動の活性化に繋がった。人権研究部の校内外の取り組みに加え、「道徳」に関する話題や「18歳選挙権」「日本人拉致問題」も取り上げ、生徒自身の人権意識や道徳に対する意識の向上に努めた。中学生にも放送を担当してもらい、中高連携で同じ人権課題について共に学ぶ機会とした。ホームルーム活動では少しずつではあるが、司会進行として人権委員がリーダーシップを発揮する機会が増えてきた。</p>			
		<p>①・人権学習ホームルーム活動においては、各年次や各クラスの実態に応じた学習主題を設定し、できるだけ多くの「個別的な視点」や「普遍的な視点」を盛り込んだ授業を展開し、生徒が積極的に参加できる授業の改善に努める。 ・各年次で必ず「同和問題」についての学習を取り上げ、同和問題に対する生徒の意識の向上を図る。 ・徳島県人権教育推進方針に追記された「日本人拉致問題」「災害時における人権問題」についても教材化に努め、積極的に取り入れる。 ・授業展開・資料に関して近年の新しい人権課題や他校の動向等も考慮し指導内容の改善に努める。</p> <p>②・支援学校との交流への積極的な参加を促し人権意識の高揚を図る。 ・人権新聞の編集に人権委員を積極的に活動させ、内容の充実を図り、年3回発行する。 ・講演会や「人権の日」の放送等については、中学校や保護者等に配慮して検討し充実させる。 ・校内外の様々な取組において人権委員がリーダーシップを発揮し活動が活性化するように指導する。 ・人権尊重の精神の涵養を図り、日頃の声かけ、呼びかけに努める。 ・道徳教育の観点からも生徒一人一人の「生きる力」の育成に努める。</p>					

平成28年度 徳島県立川島高等学校 学校評価についての総括評価表(6)

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評価		学校関係者の意見	次年度への課題
<p>(6) 心身ともに健康な生徒を育てる特別活動の充実</p>	<p>① 学校行事，生徒会活動等を通じて生徒の自主性の育成に努める。</p> <p>② ホームルーム活動や部活動のより一層の活性化を図る。</p>	評価指標	評価指標の達成度	総合評価		<p>○川島中高祭は，生徒のための祭りとして前日祭を行い，当日は保護者や地域など校外への発表や交流も行き充実してきたことは評価できる。</p> <p>○部活動では，運動部以外でも美術部や書道部，放送部などの成果が出ている。</p> <p>○よく頑張っていると思う。引き続き部活動と勉強の両立に取り組んでほしい。</p>	<p>○生徒会役員会や各種委員会を開催し，ホームルームや部活動における満足度・不満足度などを検証し改善する。</p> <p>○生徒会活動がより積極的に行えるよう，各種委員会の開催や行事内容の検討を図る。また，アンケート調査を実施し，生徒の意見を積極的に取りあげるようにする。</p> <p>○生徒主体の活動が行えるよう事前準備を十分に作る。</p> <p>○特別活動を通じて普段から将来について考えていけるようサポートする。</p>
				総合評価			
		活動計画	活動計画の実施状況	総合評価			
<p>① 通学路の一斉清掃を学期に1回実施する。</p> <p>・川島中高祭，球技大会など，学校行事への生徒の満足度を75%以上にする。</p> <p>・「個性の伸長を図り，集団の一員としてよりよい生活を築く」ため，適切な指導を行う。</p> <p>② 中央委員会を開催する。</p> <p>・部活動の入部率85%以上をめざす。</p> <p>・部活動委員会を年2回開催する。</p>	<p>① 通学路の清掃に関しては，学期に1回と夏休みなどの長期休業中にも実施ができた。</p> <p>・川島中高祭など学校行事に対する生徒の満足度が，「そう思う」と「ある程度そう思う」をあわせて72.4%（保護者は87.9%）と昨年に比べて数字は生徒，保護者とも2%程度上昇したが，目標の75%に届かなかった。学校行事の満足度を上げるためにも生徒のアンケート調査をもとに，生徒会を中心に話し合い，改善していきたい。</p> <p>・昨年初の文化祭一般公開に続いて，初めての前日祭を実施するなど新しい取組ができた。</p> <p>② 部活動の入部率は85.0%（男子86.0%，女子84.0%）と目標を達成できた。</p> <p>・部活動委員会を年3回開催し，部活動の活性化等について話し合うことができた。</p>	総合評価					
<p>① 生徒会や各種委員会が連携し，通学路や校内の清掃を行うなど積極的に美化活動に取り組む。</p> <p>・川島中高祭への積極的参加を促し，意識の高揚を図る。また，生徒会を中心に生徒が主体となって運営できるよう適切な指導を行う。</p> <p>② 部活動への積極的な参加を促す。また，部員同士で十分に話し合いをさせ，年間活動方針を明確にさせる。</p> <p>・部活動委員会を通して，部活動間で連携を深めるとともに，問題点を話し合う。</p>	<p>① 生徒会では役員を中心に，前日祭の計画や文化祭での巨大製作，予餞会での思い出ビデオ製作，募金活動，あいさつ運動など活発に行う事ができた。</p> <p>・学校行事において，生徒会を中心に学校行事の内容を精選，変革する活動がより進んでいる。</p> <p>② 日頃の在校生の頑張りが，新入生部員の積極的な入部につながった。高校1年生の入部率は，85.0%（兼部者を含む）と高いものとなった。部活動に多くの生徒が参加し，学校の活性化につなげることができた。</p> <p>・部活動委員会を通して，各部活動間で連携を深めると共に，問題点を話し合った。</p>	総合評価					
		<p>〈評定〉</p> <p style="text-align: center;"><b>B</b></p> <p>-----</p> <p>〈所見〉</p> <p>本年度の学校行事の良かった点，反省点を精査し，来年度に向けてより充実したものにしていきたい。</p> <p>部活動の入部率は昨年とほぼ同じであった。学校の活性化のためにも，来年度も85%以上を目指したい。</p>					

平成28年度 徳島県立川島高等学校 学校評価についての総括評価表(7)

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評価 価		学校関係者の意見	次年度への課題
<p>(7) 環境教育及び国際理解教育の推進</p>	<p>①「新学校版環境ISO」に取り組むなど環境保全活動に努める。</p> <p>②国際性を高めるため積極的に国際交流を図る。</p>	評価指標	評価指標の達成度	総合評価		<p>○環境教育の一環として、水道の漏水箇所を2カ所発見できたことは、小さなことでもコツコツ積み上げて大きな成果を出す本校の姿を象徴している。</p> <p>○国際交流でも、ホームステイや学内での交流等充実していた。</p> <p>○「レッツクリーン」を実施し、学校周辺の美化運動を行っているようだが、参加している生徒の一部が真面目に取り組んでいた。今後も参加者全員が真剣に取り組むよう意識を高めていってほしい。</p> <p>○海外の生徒と交流の場を持つことはこれからの社会において重要な意味があると思う。視野を広げるためにも積極的に海外との交流は行っていくべきだと思う。</p>	<p>○日直によるEco Diary(節電・節水・ゴミの分別の記録表)への記入を徹底させることで、環境意識の高揚を図る。</p> <p>○美化委員会を通して、電灯の消し忘れ対策について検討する。</p> <p>○漏水箇所の早期発見に努める。</p> <p>○ゴミの分別とともに古紙回収をさらに徹底するよう指導する。</p> <p>○来年度は8月6日～20日の15日間、参加定員は20名でオーストラリアのパーズ・ワールドフ・スクールで語学研修の実施を予定しており、本校とワールドフ・スクールとの絆をさらに深めたい。また、国際理解教育をさらに推進するための各種行事や催しへの参加を促す。</p>
		<p>①・『新学校版環境ISO』に取り組む、清掃活動や環境美化に積極的に取り組んでいる。」と思う生徒の割合は、75%以上をめざす。</p> <p>・「ゴミの分別・節電・節水等に努めている。」と思う生徒の割合は、75%以上をめざす。</p> <p>・水道の使用量を抑制するために漏水箇所を1箇所以上発見する。</p> <p>②・9月29日(木)～10月2日(日)オーストラリアのPerth Waldorf Schoolからの訪問団を受け入れる。日豪両国の文化理解と、両校の友好親善を深める。</p>	<p>①・清掃活動や環境美化に積極的に取り組んでいると思う生徒の割合は75.2%(前年比4.2ポイント減)であり、評価指標を上回った。</p> <p>・ゴミの分別・節電・節水等に努めていると思う生徒の割合は81.2%(前年比3.3ポイント減)であり、評価指標を達成することができた。</p> <p>・水道の漏水箇所を、2カ所発見することができた。</p> <p>②・9月29日～10月2日にオーストラリアのパーズ・ワールドフ・スクールからの訪問団(生徒12名、引率教員2名)を受け入れた。海外語学研修でのホームステイ経験生徒を中心にホストを引き受けてもらった。学校では歓迎式の他、中学校で茶道や剣道徳島の文化紹介の授業を受け、高校では体育、書道の授業を体験した。放課後には手芸・クッキング部員の協力の手巻き寿司を作って交流を深めた。交流の様子は徳島新聞朝刊の記事にも取り上げられた。</p>	<p>〈評定〉</p> <p style="text-align: center;"><b>B</b></p> <p>-----</p> <p>〈所見〉</p> <p>『新学校版環境ISO』の認定を受けて5年目になるが、美化委員会だけでなく全校的な取り組みとなるようゴミの分別や節電・節水の徹底を呼びかけるほかに、漏水箇所の発見に努めた。</p> <p>海外語学研修への参加生徒は、文化祭でパネル展示し研修の様子や成果を発表した。</p>			
		活動計画	活動計画の実施状況	<p>①・『新学校版環境ISO』告知版を設置し行動方針等諸活動の内容を紹介した。</p> <p>・電気や水道の使用量はグラフ掲示し、美化委員から節電・節水の協力と呼びかけた。</p> <p>・ゴミの分別や古紙回収を行い、ゴミの減量に全員で取り組んだ。</p> <p>・美化委員と生徒会に加えて、今年はPTAの参加も得て通学路や駅、学校周辺の環境美化運動「レッツクリーン」を実施した。</p> <p>・電気や水道の使用状況から、漏水の可能性に気づき、漏水箇所を発見した。</p> <p>②・ホームステイの受け入れ態勢を整え、歓迎行事や授業、部活動体験などあらゆる教育活動の場で交流ができるようなプログラムを準備し、両校生徒相互の文化理解を図り、友好親善を深める。</p>			

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評価		学校関係者の意見	次年度への課題
<p>(8) 開かれた学校づくりと安全教育の推進</p>	<p>① 地域貢献活動等の活性化や、ホームページ等を活用した広報活動の充実を図り、家庭や地域の連携を深めるとともに、外部評価結果を生かす取組の推進に努める。</p> <p>② 地域と連携した安全・防災教育の積極的な推進に努める。</p>	評価指標	評価指標の達成度	総合評価		<p>○ホームページの更新については、より多くより早くできるようになったと思います。大きな絆ですので今後もお願いしたい。</p> <p>○防災訓練を9月にしたことは良かったが、4月末に新入生もいて新体制でやる方法もある。</p> <p>○ホームページについては改善に努めているが、未だ見づらと思う。学校の情報を知る手段として重要であり、また楽しみに行っているの、さらに改善に努めてほしい。</p>	<p>○ホームページについては年度当初に担当者会議を開き、生徒会の意見も聞くなどして、より生徒の求める情報を載せる工夫が必要である。</p> <p>○11月の「とくしま教育週間」の公開授業については昨年よりも参加者は少し増えたものの、さらに多くの参加者を得るための広報活動を充実させる必要がある。</p> <p>○防災クラブとしての校内活動をさらに広げたり、強化したりして、生徒全体に災害対応への関心をより一層高めてもらえるようにしたい。また教職員には災害時の役割意識を備えてもらえるように役割分担が明確に確認できる取り組みを実施したい。</p>
		<p>① ・ボランティア活動を通じて感動や喜び、達成感などを習得し、心豊かな生徒の育成をめざす。 ・「ホームページが充実しており、学校の活動状況を理解するのに役立っている」と思う割合は、生徒・保護者とも70%以上をめざす。</p> <p>② ・防災・減災の意識が向上したと実感できる生徒の割合を80%以上にする。</p>	<p>① ・地域の美化活動やイベントの運営協力を行うことにより、地域に貢献できる生徒の育成を推進できた。 ・ホームページが充実しており、学校の活動状況を理解するのに役立っていると思う割合は、生徒は53.6%(前年比5.8ポイント増)、保護者は75.4%(前年比3.0ポイント増)であった。</p> <p>② ・昨年度は12月に実施した防災訓練を本年度は9月に行った。アンケート実施が1月前後だったこともあり、防災に関する満足度が昨年度より減っている。しかし防災訓練当日は、生徒たちの自主的で活発な活動の様子が目撃され、生徒たちには自助・他助の精神のもとにした行動力の高まりを感じた。しかし、災害時に備えた教職員の意識は低く、十分な役割認識が定着していないと感じる。</p>	<p>〈評定〉</p> <p style="text-align: center;"><b>B</b></p>	<p>〈所見〉</p> <p>ホームページについては、校内外での活動を知ってもらう記事が前年より増加したことで、保護者・生徒の評価は前年より増加した。</p> <p>防災クラブの生徒だけでなく、全校生徒が様々な防災活動を通して、必要な知識や経験を積み重ね、防災・減災の意識の向上とそのためスキルアップが成されていると感じる。</p> <p>対して、教職員の意識や意欲については必要なレベルに達していないように見受けられる。</p>		
		活動計画	活動計画の実施状況		<p>① ・吉野川市「レッツ・クリーン」に参加し環境美化を推進する。 ・イベントに際しては積極的にボランティアとして参加させる。 ・ホームページ更新方法の講習会等を開き、掲載情報の拡充に重点を置き、最新情報の掲載や項目の追加を適時効果的に行う。 ・携帯メールによる緊急連絡網を活用する。</p> <p>② ・より実践的で生徒らが主体的にできる防災訓練・避難訓練を実施する。 ・地域の防災訓練への参加呼びかけを行う。 ・防災クラブによる積極的な防災活動を学校行事などを通して実施する。</p>		

